

事例3-2

取組名	町会内の事業所等と連携した防災訓練		
町会名	ひがしまち 東町2丁目（東部地区）	町会 データ	・人口／113人 ・世帯数／71世帯 ・高齢化率／34.5% ・町会加入数／50世帯 ・隣組数／6組
取組概要	○ 町会内の事業所等と連携し、それぞれの専門を生かすことで、幅広い世代が参加する体験型の防災訓練を実施		

背景・課題

- ・ 防災訓練の参加者が固定化し、特に現役世代や子どもの参加が少ないという課題があった。
- ・ 訓練の必要性は理解されていても、「自分ごと」として実感が持ちににくく、参加の動機づけが弱かった。
- ・ 町会内にはリハビリ施設や電機商店など、防災に役立つ専門的な知識や設備を有する事業所もあるが、これまで防災訓練への関わりは限定的であり、地域資源が十分に活かされていなかった。

経過・取組内容

- ・ 防災訓練をより実践的で魅力あるものとするため、町会内の事業所や消防団と連携した防災訓練を企画した。
（訓練内容）
 - ① 避難・集合訓練
 - ② AEDの操作体験
 - ③ 水消火器の体験
 - ④ 発電機を用いた井戸水の汲み上げ
 - ⑤ 発電機を用いたテレビの視聴
 - ⑥ エコノミークラス症候群予防体操
- ・ 訓練は、避難集合場所をリハビリ施設の駐車場に設定して行った。
- ・ 電機商店の協力により、発電機とパラボラアンテナを用いたテレビの試運転を実施し、停電時でもテレビから情報収集ができることを体験した。特に、発電機でテレビが映る様子は、子どもたちの関心を引き、防災を身近に感じるきっかけとなった。

- ・ リハビリ施設の職員を講師に、避難生活でリスクが高まるエコノミークラス症候群を予防する体操を実施。専門職の視点から健康維持の重要性を学び、参加者の関心を集めた。
- ・ 消防団の協力のもと、発電機とポンプを用いて井戸水を汲み上げ、実際に放水する訓練を実施した。地域にある井戸を災害時に活用できることを確認するとともに、発電機の実用性を体験的に理解する機会となった。

成果・今後の展望等

- ・ 毎回20～30人の参加があり、年1回の行事として定着してきている。
- ・ 町会内の事業所等と連携することで、楽しみながら学べる体験型の訓練を実現でき、子どもから高齢者まで幅広い世代の参加につながった。
- ・ 今後は、他の事業所にも参加を呼びかけ、地域全体で支え合う防災体制の構築を図っていく。
- ・ また、町会内の住民や事業所等が「自分ごと」と捉え、町会活動に関心を持てるよう取り組んでいきたい。

【ポイント】

- ▼ 地域資源の活用や多様な団体・企業等との連携により、町会行事をブラッシュアップ